

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第19回

正義とグローバル社会 日本軍「慰安婦」問題から考える

岡野 八代

グローバル・スタディーズ研究科 教授



正義とは西洋政治思想史の文脈では、古い慣習や道徳から離れて、第三者の立場から公平・平等に人々を扱うこと、「等しい者を等しく、等しくない者を等しくなく扱うこと」と定義されてきました。そして、この定義は「普遍的」だと考えられてきました。ところが、正義の女神に象徴されるように、正義は時に残酷で、声なき者の声には耳を傾けないこともあります。また、世界の悲惨な歴史、現在の格差を考えれば、正義など存在しないといたくなるのが現状です。本レクチャでは、正義とグローバル社会との関係に触れながら、日本軍「慰安婦」問題を具体例に正義を為すとは何を為すことなのかについて、みなで考えてみたいと思います。

主著 『法の政治学——法と正義とフェミニズム』(2002)、『シティズンシップの政治学』(2009)、
共著 『ケアの倫理からはじめる正義論』(2011)など。

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： **11** 月 **30** 日 (水)

18:30-20:00

会場： **博遠館 212** 番教室

共催：「女性・戦争・人権」学会

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp